

十月鹿ノ台教室誌上句会 優秀句

お題「漂う」(連記) 前田幸男選

コロナ禍で失職倒産群れている

乃り子

平和です騒乱見出溢れてる

千楽

プラゴミが海に漂う宴あと

哲子

飛行雲孤独な旅を願うのか

ミノル

ちよい悪にかすかに浮いて加齢臭

正清

しがらみに漂う舟と孤立感

ちさと

エリンギの松茸風味土瓶蒸し

アキラ

鼻くすぐるとなりの夕餉いいにおい

春代

漂って世の荒海を泳ぎきる

登美

また悪臭漂いだした永田町

義雄

残照のオーラ漂う父の笑み

広子

流されながら漂いついた定年日

よう子

どうしても気配ただよう疎外感

えいじ

ふんわりと朝日漂うシワの肌

宏樹

左右から551とケンタツキー

英二

秀 失言にその場かき消す清浄機

充

軸 ひばりさん川の流れにケセラセラ

幸男

お題「読む」 勝部乃り子選

行間にかすかに残る紙魚のあと

ちさと

優先席空いて互いの歳をよむ

よう子

うろうろとわからぬ経をそらんずる

ちさと

金釘流の漢字練習母の文字

春代

パソコンの文字はいずれも筆がたつ

正清

繰り返し繰り返し読む下手な文字

英二

書いてない空白を読む日記帳

春代

オーダーの客が舌かむケーキ店

アキラ

マンガ読み歴史覚える現代子

登美

鯖読んだツケがまわって厚化粧

広子

五十年今なお読めぬディスプレイ

哲子

秀 日記とじ虚飾の顔をのぞきこむ

正清

軸 遺憾です老後資金の読みあまく

乃り子

お題「声」 八木哲子選

声をのむシロクマ君に居場所なし

千楽

今日明日か産声を待つ母子手帳

よう子

幸せが吹きこぼれてる笑い声

義雄

聞こえるか声なき声を聞きますか

幸男

ただいまのひと声すべてお見通し

英二

山ほどの言いたい事は胃で消化

春代

天の声ズバリひと言女房殿

千楽

笑い声聞こえる部屋へ仲間入り

えいじ

野の仏声ふるわせて大落暉

正清

名月に待ち焦がれてた秋の声

広子

舞鶴でタダイマの声母は待ち

乃り子

秀 喉元で止めた本音が顔に出る

アキラ

軸 電話越し声美人とは小さきマル

哲子

自由吟 森里えいじ選

ひらがなで癒してくれる秋の風

よう子

何もせずそれでも一つ年をとる

充

生き抜いてお面の在庫増えました

アキラ

べつべつの夢を見ながらハネムーン

義雄

待ちわびた長袖揺れる秋の風

哲子

粘膜にこびりついてる嫉妬心

正清

好きと書き波に消される夏の恋

アキラ

人生の終わり近づき急ぎ足

哲子

移り気がその気になってしゃしゃり出る

ちさと

筆を持ち慶と書くことうんと減る

乃り子

良い知恵が明日も出るかももう寝よう

宏樹

秀 ティースプーンじわり孤独をかきまぜる

よう子

軸 数独もいつの間にか夢の中

えいじ

自由吟 奥村義雄選

筆を持ち慶と書くことうんと減る

乃り子

人生の終わり近づき急ぎ足

哲子

何もせずそれでも一つ年をとる

充

あせりますGOTO何かしなくちゃあ

充

待ちわびた長袖揺れる秋の風

哲子

ひらがなで癒してくれる秋の風

よう子

順風に酔って逆風もろに受け

登美

ティースプーンじわり孤独をかきまぜる

よう子

生き抜いてお面の在庫増えました

アキラ

好きと書き波に消される夏の恋

アキラ

ありがとう歩ける食べる生きてる

宏樹

秀 粘膜にこびりついてる嫉妬心

正清

軸 べつべつの夢を見ながらハネムーン

義雄

十一月誌上句会 投句〆十一月十日 各二句

「ふわり」橘正清選 「食べる」澤山よう子選

「灯り」(連記) 五十嵐千楽選

自由吟(共選) 山神春代選 播本英二選

*メール又は封書 アキラ迄

*書式・用紙は自由、お題・柳号記入を

◎封書の場合は楷書で明瞭にお願いします